

(様式第9)

事務連絡
平成21年10月2日

厚生労働大臣 殿

三重大学医学部附属病院長
竹 田

三重大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成19年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照 (様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照 (様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	20.6 人
--------	--------

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照 (様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
→ 別紙参照 (様式第13)
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照 (様式第13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常勤	非常勤	合 計	職 種	員数	職 種	員数
医 師	190人	110人	296.8人	看護業務補助者	67人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	8人	13人	21.0人	理学療法士	6人	臨床検査 査	臨床検査技師 47人
薬 剤 師	21人	21人	41.0人	作業療法士	2人		衛生検査技師 1人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	2人		そ の 他 2人
助 産 師	17人	1人	17.2人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	328人	94人	389.2人	臨床工学技士	14人	医療社会事業従事者	4人
准看護師	4人	7人	7.6人	栄 養 士	0人	その他の技術員	20人
歯科衛生士	0人	5人	4.0人	歯科技工士	2人	事 務 職 員	148人
管理栄養士	5人	2人	6.5人	診療放射線技師	31人	そ の 他 の 職 員	23人

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	497.9人	11.2人	509.1人
1日当たり平均外来患者数	1027.1人	85.1人	1112.2人
1日当たり平均調剤数	569.9剤		

9 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況、医療に係る安全管理を行う部門の設置状況

→ 別紙参照（様式第13の2）

10 病院内の患者からの相談に適切に応じる体制の確保状況、医療に係る安全管理のための指針の整備状況

→ 別紙参照（様式第13の2）

11 安全管理の体制確保のための委員会の開催状況、安全管理の体制確保のための職員研修の開催状況

→ 別紙参照（様式第13の2）

12 医療機関内における事故報告等の整理 → 別紙参照（様式第13の2）

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
・高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・凍結保存同種組織を用いた外科治療（心臓弁又は血管を用いるものであって、組織の凍結保存及び外科治療を同一施設内で行うものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・胎児心超音波検査（産科スクリーニング胎児超音波検査において心疾患が強く疑われる症例に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・インプラント義歯（顎骨の過度の吸収により、従来の可撤性義歯では咀嚼機能の回復が困難なものに限る。）	<input checked="" type="radio"/> 有・無	30人
・顎顔面補綴（腫瘍手術、外傷及び炎症その他の原因により顔面領域に生じた広範囲の実質欠損に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・顎関節症の徳級顎的治療（顎関節症（顎関節内障、下顎頭の著しい変形及び顎関節円板の断裂を除く。）に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法（神経の障害による運動麻痺又は骨・関節手術後の筋萎縮に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・光学印象採得による陶材歯冠修復法（歯冠部蝕蝕の修復に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・経皮的レーザー椎間板減圧術（内視鏡下によるものを含み、椎間板ヘルニアに係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定（白血病、悪性リンパ腫又は多発性骨髄腫その他の造血器悪性腫瘍に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法（手術が予定されている者で、悪性高熱症が強く疑われる者に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・CTガイド下気管支鏡検査（肺腫瘍に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断（アンチトロンビン欠乏症、第VII因子欠乏症、先天性アンチトロンビンIII欠乏症、先天性ヘパリンコファクターII欠乏症又は先天性プラスミノゲン欠乏症に係るものに限る。）	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
・筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験（消化器がん、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・三次元形状解析による顔面の形態的診断（頭蓋、顔面又は頸部の変形性疾患に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・HDR法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験（消化器がん（根治度Cの胃がんを除く。）、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断（子宮頸部軽度異形成に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・腹腔鏡下肝部分切除（肝外側区域切除術を含み、肝腫瘍に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・悪性腫瘍に対する陽子線治療（固形がんに係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術（角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術（内視鏡的治療若しくは薬物治療抵抗性の食道静脈瘤又は胃静脈瘤、門脈圧亢進症性胃腸症、難治性腹水又は難治性肝性胸水に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術（主に乳房温存手術が可能なステージI又はIIの乳がんに係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・声帯内自家側頭筋膜移植術（一側性反回神経麻痺又は声帯溝症に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・骨髄細胞移植による血管新生療法（閉塞性動脈硬化症又はパージャーカー病（従来の治療法に抵抗性のもので、フォンタン分類III度又は同分類IV度のものに限る。）に係るものに限る。）	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
・ミトコンドリア病のDNA診断（高乳酸血症その他のミトコンドリア機能低下が疑われる疾患に係るものに限る。）	有・無	0人
・鏡視下肩峰下腔徐圧術（透析アミロイド肩関節症又は腱板断裂、五十肩若しくは肩関節リウマチその他の原因による肩インピンジメント症候群に係るものに限る。）	有・無	0人
・神経変性疾患のDNA診断（ハンチントン舞蹈病、脊髄小脳変性症、球脊髄性筋萎縮症、家族性筋萎縮性側索硬化症、家族性低カリウム血症性周期性四肢麻痺又はマックリード症候群その他の神経変性疾患に係るものに限る。）	有・無	0人
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術（再発翼状片、角膜上皮欠損（角膜移植によるものを含む。）、角膜穿孔、角膜化学熱傷、角膜癒着（ステロイドによるものを含む。）、結膜上皮過形成又は結膜腫瘍その他の眼の疾患に係るものに限る。）	有・無	0人
・重粒子線治療（固形がんに係るものに限る。）	有・無	0人
・脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術（原発性脊椎腫瘍又は転移性脊椎腫瘍に係るものに限る。）	有・無	0人
・31磷一磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断（糖尿病性足病変危険群と考えられる糖尿病患者に係るものに限る。）	有・無	0人
・神経芽腫のRNA診断	有・無	0人
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療（腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊椎管狭窄症又は腰椎手術の実施後の腰下肢痛（保存治療に抵抗性のものに限る。）に係るものに限る。）	有・無	0人
・重症BCG副反応症例における遺伝子診断（BCG副反応症例又は非定形抗酸菌感染で重症、反復若しくは難治である場合に係るものに限る。）	有・無	0人
・骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体空素処理骨移植	有・無	0人
・膵腫瘍に対する腹腔鏡補助下膵切除術（インスリノーマ、脾動脈瘤、粘液性嚢胞腫瘍、膵管内腫瘍その他の膵良性腫瘍に係る膵体尾部切除又は核出術に限る。）	有・無	0人
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断（マントル細胞リンパ腫の補助診断として用いるものに限る。）	有・無	0人
・悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・無	0人
・Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断（急性期又は慢性期のQ熱に係るものに限る。）	有・無	0人
・エキシマレーザー冠動脈形成術（経皮的冠動脈形成術（エキシマレーザー冠動脈形成術を除く。）による治療が困難なもの、慢性完全閉塞のもの又はこれに準ずるものに限る。）	有・無	0人
・活性化Tリンパ球移入療法（原発性若しくは続発性の免疫不全症の難治性日和見感染症又は慢性活動性EBウイルス感染症に係るものに限る。）	有・無	0人
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・無	0人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術（膀胱尿管逆流症（国際分類グレードVの高度逆流症を除く。）に係るものに限る。）	有・無	0人
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	有・無	0人
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術（泌尿生殖器腫瘍のリンパ節転移例又は画像上リンパ節転移が疑われるものに係るものに限る。）	有・無	0人
・HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植（HLA適合ドナーがいなかったために造血幹細胞移植が受けられない小児がん、難治性造血障害又は免疫不全症にかかる者に限る。）	有・無	0人
・頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術（頸椎椎間板ヘルニア（画像診断上椎間板に繊維輪の破綻して後縦帯骨化して神経根症又は脊髄症があるものを除く。）に係るものに限る。）	有・無	0人
・ケラチン病の遺伝子診断（水疱型魚鱗癬様紅皮症又は単純型表皮水疱症その他の遺伝子異常に係るものに限る。）	有・無	0人
・隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・無	0人
・末梢血幹細胞による血管再生治療（慢性閉塞性動脈硬化症又はパージャーカー病（重篤な虚血性心疾患又は脳血管障害を有するものを除く。）に係るものに限る。）	有・無	0人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
・末梢血単核球移植による血管再生治療（慢性閉塞性動脈硬化症又はバニャー性悪性限病（従来の既往又は未治療の糖尿病性網膜症のあるものを除く。）に三以内の悪性限病（従来）の既往又は未治療の糖尿病性網膜症のあるものを除く。）に三以内の悪性限病（従来）の既往又は未治療の糖尿病性網膜症のあるものを除く。）	有・無	0人
・一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術（双胎間輸血症候群に罹患した一絨毛膜性双胎妊娠の症例（妊娠十六週から二十六週に限る。）に係るものに限る。）	有・無	0人
・カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法（肺がん又は気管支前がん病変に係るものに限る。）	有・無	0人
・先天性銅代謝異常症の遺伝子診断（ウィルソン病、メンケス病又はオクシピタルホーン症候群に係るものに限る。）	有・無	0人
・超音波骨折治療法（四肢の骨折（治療のために手術中に行われるものを除く。）のうち、観血的手術を実施したもの（開放骨折又は粉碎骨折に係るものを除く。）に係るものに限る。）	有・無	0人
・CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法（ヘリコバクター・ピロリ感染を伴う胃潰瘍又は十二指腸潰瘍に係るものに限る。）	有・無	0人
・非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存（骨又は靭帯の再建術であって、先天性疾患、外傷性（欠損性又は感染性偽関節）に再建術に際して、関節固定術時若しくは人工関節置換術時（初回又は再置換術時）に不安定性に係るものに限る。）	有・無	0人
・X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術（難治性根尖性歯周炎であって、通常の根管治療では効果が認められないものに限る。）	有・無	0人
・定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価（骨粗鬆症、骨変形若しくは骨腫瘍又は骨腫瘍摘除術後若しくは骨髄炎摘除術後の症状に係るものに限る。）	有・無	0人
・膀胱水圧拡張術（間質性膀胱炎に係るものに限る。）	有・無	0人
・色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・無	0人
・先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有・無	0人
・歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法（歯周炎による重度垂直性骨欠損に係るものに限る。）	有・無	0人
・セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術（人工股関節のたるみに係るものに限る。）	有・無	0人
・腹腔鏡下直腸固定術（直腸脱に係るものに限る。）	有・無	0人
・骨移動術による関節温存型再建（骨軟部腫瘍切除後の骨欠損に係るものに限る。）	有・無	0人
・肝切除手術における画像支援ナビゲーション（原発性肝がん、肝内胆管がん、転移性肝がん又は生体肝移植ドナーに係るものに限る。）	有・無	0人
・樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法（腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍（食道がん、胃がん又は大腸がん）、進行再発乳がん又は原発性若しくは転移性肺がんに係るものに限る。）	有・無	0人
・自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法（がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。）	有・無	0人
・自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法（がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。）	有・無	0人
・リアルタイムPCRを用いた迅速診断（EBウイルス感染症に係るものに限る。）	有・無	0人
・内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術（尿管腫瘍、膀胱腫瘍、後腹膜腫瘍、後腹膜リンパ節腫瘍（精巣がんから転移したものに限る。）又は骨盤リンパ節腫瘍（泌尿器がんから転移したものに限る。）に係るものに限る。）	有・無	0人
・多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術（白内障に係るものに限る。）	有・無	0人
・先天性難聴の遺伝子診断（遺伝性による先天性難聴が疑われるものに限る。）	有・無	0人
・フェニルケトン尿症の遺伝子診断（フェニルケトン尿症、高フェニルアラニン血症又はピオプテリン反応性フェニルアラニン水酸化酵素欠損症に係るものに限る。）	有・無	0人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
・培養細胞による先天性代謝異常診断(先天性代謝異常(ライソゾーム病に限る。)に病来による可能性が高い小児に属するものに限る。)	有・無	0人
・腹腔鏡下子宮体がん根治手術(手術進行期分類Ib期までの子宮体がんに係るものに限る。)	有・無	0人
・腹腔鏡下子宮体がん根治手術(手術進行期分類Ib期までの子宮体がんに係るものに限る。)	有・無	0人
・培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・無	0人
・RET遺伝子診断(甲状腺髄様癌に係るものに限る。)	有・無	0人
・角膜ジストロフィの遺伝子解析(角膜ジストロフィと診断された症例に係るものに限る。)	有・無	0人
・強度変調放射線治療(限局性の固形悪性腫瘍(頭頸部腫瘍、前立腺腫瘍又は中枢神経腫瘍であって、原発性のものを除く。)に係るものに限る。)	有・無	0人
・マイクログ波子宮内膜アブレーション(機能性及び器質性過多月経(ただし、妊娠性温存の必要がある場合を除く。)又は子宮内膜がん、異型内膜増殖症その他の悪性疾患に係るものに限る。)	有・無	0人
・抗EGFR抗体薬投与前におけるKRAS遺伝子変異検査(EGFR陽性の治癒切除不能進行又は再発の結腸又は直腸がんに係るものに限る。)	有・無	0人
・光トポグラフィ及び傷統分わに第名病2(気疑のくも)	有・無	0人
・内視鏡下着穿に色素よ実	有・無	0人
・菌科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴(小臼歯の重度の齲蝕に対して全部被覆冠による歯冠補綴が必要な場合に限る。)	有・無	0人
・大腸腫瘍切除術(早期大腸がん(EMR)による切除(内視鏡的)又は後期大腸がん(EMR)による切除(開腹手術)に係るものに限る。)	有・無	0人
・実物大臓器立体モデルによる手術支援(骨盤、四肢骨又は関節に著しい変形又は欠損を伴う疾患又は外傷に係るものに限る。)	有・無	0人
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術(頸部良性腫瘍に係るものに限る。)	有・無	0人
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・無	0人
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術(転移性脊椎骨腫瘍、骨粗鬆症による脊椎骨折又は難治性疼痛を伴う椎体圧迫骨折若しくは白蓋骨折に係るものに限る。)	有・無	5人
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・無	0人
・カフェイン併用化学療法(骨肉腫、悪性線維性組織球腫、滑膜肉腫又は明細胞肉腫その他の骨軟部悪性腫瘍に係るものに限る。)	有・無	0人
・胎児尿路・羊水腔シャント術(プルーン・ベリー症候群その他の胎児閉塞性尿路疾患に係るものに限る。)	有・無	0人
・筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療(ジストニア、痙性麻痺その他の局所の筋過緊張を呈する病態に係るものに限る。)	有・無	0人
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(胸部悪性腫瘍(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないもの)に係るものに限る。)	有・無	193人
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(腎悪性腫瘍(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないもの)に係るものに限る。)	有・無	25人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
・内視鏡下甲状腺がん手術（手術の実施後、予後の良い甲状腺乳頭がんに係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法（転移性骨腫瘍で既存の治療法により制御不良なもの又は類骨腫（診断の確実なものに限る。）に係るものに限る。）	<input checked="" type="radio"/> 有・無	33人
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法（一次性下肢静脈瘤に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術（特発性又は既知の胎児先天性感染による胸水を主たる徴候とする非免疫性胎児水腫症（NIHF）例であって、胸腔穿刺後一週間以降に胸水の再貯留が認められるもの（妊娠二十週から三十四週未満に限る。）に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
・副甲状腺内活性型ビタミンD（アナログ）直接注入療法（二次性副甲状腺機能亢進症に係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・腹腔鏡補助下肝切除術（部分切除及び外側区域切除を除く。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・根治的前立腺全摘除術における内視鏡下手術用ロボット支援（前立腺がんに係るものに限る。）	有・ <input type="radio"/> 無	0人

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	70人	・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	34人
・多発性硬化症	48人	・ウェゲナー肉芽腫症	6人
・重症筋無力症	126人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	31人
・全身性エリテマトーデス	469人	・多系統萎縮症	4人
・スモン	6人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	6人
・再生不良性貧血	64人	・膿疱性乾癬	10人
・サルコイドーシス	101人	・広範脊柱管狭窄症	3人
・筋萎縮性側索硬化症	54人	・原発性胆汁性肝硬変	105人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	278人	・重症急性膵炎	8人
・特発性血小板減少性紫斑病	93人	・特発性大腿骨頭壊死症	1人
・結節性動脈周囲炎	15人	・混合性結合組織病	32人
・潰瘍性大腸炎	235人	・原発性免疫不全症候群	4人
・大動脈炎症候群	23人	・特発性間質性肺炎	15人
・ビュルガー病	0人	・網膜色素変性症	41人
・天疱瘡	55人	・プリオン病	0人
・脊髄小脳変性症	52人	・原発性肺高血圧症	18人
・クローン病	91人	・神経繊維腫症	16人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	12人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	9人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	38人
・パーキンソン病関連疾患	243人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	0人
・アミロイドーシス	24人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	1人
・後縦靭帯骨化症	56人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	0人		

3 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に	1回程度	(3種類の検討会)
	1か月に	2回程度	(1種類の検討会)
	1か月に	1回程度	(2種類の検討会)
剖検の状況	剖検症例数	48例	剖検率 20.3%

高度の医療技術の開発及び評価の実績 (平成20年度)

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
多価性がんワクチン	珠玖 洋	がんワクチン講座	21,100	補 科学研究費補助金
ヒト認知機能を障害させる遺伝子異常を持つモデル動物の作出とその病態解析	岡田 元宏	精神病態学	3,700	補 科学研究費補助金
脳動脈瘤血管内治療に用いる新規デバイスの開発研究	滝 和郎	脳神経外科学	5,000	補 科学研究費補助金
がんの骨転移に対する包括的分子生物学治療	内田 淳正	病態修復医学講座	2,800	補 科学研究費補助金
DIF・PDEシグナルをターゲットとした悪性黒色腫細胞に対する分子標的薬の開発	村田 琢	歯科口腔外科	3,200	補 科学研究費補助金
強心作用に関する新しい分子機序の解明、病態との関連解析と新しい治療法への応用	伊藤 正明	循環器内科学	2,800	補 科学研究費補助金
アクリジン色素とストロボ光を用いた骨・軟部肉腫の同時・瞬間的診断治療戦略の開発	楠崎 克之	整形外科	2,500	補 科学研究費補助金
子宮内環境の悪化に起因する成長後の各種疾患発症機序の解析とその予防法の開発	佐川 典正	生殖病態生理学	4,800	補 科学研究費補助金
悪性腫瘍における治療選択検査と分子標的治療の開発:プリン代謝酵素欠損モデル	登 勉	臨床検査医学	5,000	補 科学研究費補助金
パーキンソン病における酸化ストレス誘導神経細胞死の新規解明と予防法の確立	及川 伸二	環境分子医学	5,200	補 科学研究費補助金
口腔悪性腫瘍に対するPDE2関連シグナル・遺伝子治療	田川 俊郎	口腔・顎顔面外科学	6,600	補 科学研究費補助金
開発途上国のアルツハイマー病及び生活習慣病の現状とその発症メカニズムを解明する	翠川 薫	神経内科	1,000	補 科学研究費補助金
障害心筋におけるエネルギー代謝異常と心筋バイアビリティ:核医学とMRIによる検討	竹田 寛	非侵襲診断治療学	900	補 科学研究費補助金
冠動脈MRAと心筋パーフュージョンMRI定量解析による冠動脈疾患の総合的評価	佐久間 唯	中央放射線部	700	補 科学研究費補助金
亜鉛代謝からみた膵広範切除後脂肪肝発症機序の解明と治療	伊佐地 秀司	肝胆臓・移植外科学	600	補 科学研究費補助金
スギ花粉症の新規治療法・舌下免疫療法臨床評価と効果判定法の研究	湯田 厚司	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	800	補 科学研究費補助金
高温曝露時(熱中症)における脳・心臓の急性反応の形態学的・分子生物学的検索	那谷 雅之	法医学科学	1,700	補 科学研究費補助金
上皮間葉移行の気道リモデリングへの関与とその制御方法に関する検討	小林 哲	呼吸器内科	1,700	補 科学研究費補助金
ヒト単球のランゲルハンス細胞への運命決定における皮膚組織環境の重要性	片山 直之	造血病態内科学	1,500	補 科学研究費補助金
パニック障害の生物学的マーカーの開発	谷井 久志	精神病態学	700	補 科学研究費補助金
機械的脳塞栓・血栓除去用機材の開発と手技の確定に関する研究	朝倉 文夫	脳神経外科	900	補 科学研究費補助金
間質細胞内TGFβ/BMPシグナルに制御される前立腺の異常増殖機構	石井 健一朗	腎泌尿器外科学	1,000	補 科学研究費補助金
胚性幹細胞から誘導された神経堤幹細胞及び歯胚(歯嚢)の幹細胞を用いた硬組織再生	山崎 英俊	再生制御医学	800	補 科学研究費補助金
腎特異的酸化ストレスによる尿管薬物トランスポータの発現・機能変動とその役割	奥田 真弘	薬剤部	2,600	補 科学研究費補助金
比較定量ペプチドミクスによる肝疾患病態責任分子の解析と新規バイオマーカーの探索	白木 克哉	消化器内科学	1,500	補 科学研究費補助金
遺伝子改変マウスを用いた肺高血圧症発症機序の解明と新規治療法の開発	丸山 淳子	医学医療教育学	1,500	補 科学研究費補助金
紀伊半島のALSとパーキンソン病重複におけるSNPs解析による発病因子の検討	小久保 康昌	神経病態内科学	1,400	補 科学研究費補助金
マウス慢性脳低灌流モデルに対するヒト胚性幹細胞由来血管前駆細胞移植	富本 秀和	神経病態内科学	2,600	補 科学研究費補助金
造血幹細胞由来細胞から肝星細胞への分化機序の解明:新規肝線維症治療法を目指して	梶屋 正浩	造血病態内科学	1,600	補 科学研究費補助金
スギ花粉アレルギーに対する抗原特異的抑制性T細胞の誘導の検討	山中 恵一	皮膚科	2,700	補 科学研究費補助金

研 究 課 題 名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
遺伝子型からみた生体肝移植におけるテラーメド治療	白井 正信	肝胆膵・移植 外科学	2,000	補 科学研究費補助金
脳動脈瘤破裂リスクを予測するための4次元CT血管造影法の開発	松島 聡	脳神経外科学	2,100	補 科学研究費補助金
肉腫肺転移に対する、デコリンを用いた画期的な治療戦略の確立	松峯 昭彦	整形外科	2,400	補 科学研究費補助金
MAGE-A4特異的T細胞受容体導入 $\gamma\delta$ T細胞を用いた再発卵巣がんの免疫細胞療法	日浅 厚則	産婦人科	1,600	補 科学研究費補助金
悪性骨軟部腫瘍の光線力學療法における新たな腫瘍親和性光感受性物質の開発	楠崎 克之	整形外科	700	補 科学研究費補助金
前立腺形態発生に関わる脈領域特異的遺伝子の解析	杉村 芳樹	腎泌尿器外科 学	1,200	補 科学研究費補助金
血中ホモシステイン測定によるロイコボリン投与スケジュールの個別化に関する研究	登 勉	臨床検査医学	1,500	補 科学研究費補助金
呼吸中枢未熟ラットにおける吸気炭酸ガス反応性の検討ー乳幼児突然死症候群との関連	成田 正明	発生再生医学	1,900	補 科学研究費補助金
糖尿病合併妊娠における酸化ストレス・アポトーシスによる先天奇形発生機序の解明	杉山 隆	周産母子セン ター	1,900	補 科学研究費補助金
未破裂脳動脈瘤に対するテラーメドステント治療法の開発	滝 和郎	脳神経外科学	1,300	補 科学研究費補助金
ES細胞分化でのphosphodiesteraseの役割	田川 俊郎	口腔・顎顔面 外科学	1,800	補 科学研究費補助金
血栓溶解療法時における低体温療法併用の有用性	矢田 健一郎	産業医学・中毒学 プロジェクト研究 室	900	補 科学研究費補助金
非侵襲脳計測を用いたパニック障害発症に関わる神経ネットワークの解明	西村 幸吾	精神科神経科	1,500	補 科学研究費補助金
脂肪肝からの肝移植は可能となるかー虚血再灌流障害から移植まで動物モデルを使ってー	岸和田 昌之	肝胆膵外科	1,080	補 科学研究費補助金
肺高血圧における神経堤由来細胞と骨髄由来細胞の関与：遺伝子改変マウスを用いた検討	大橋 啓之	小児科	1,300	補 科学研究費補助金
多核白血球機能評価から検討した腹腔内癒着防止材の腹腔内感染への影響に関する研究	井上 幹大	小児外科	600	補 科学研究費補助金
外傷性嗅覚障害に対する嗅覚再生治療のための基礎研究	小林 正佳	耳鼻咽喉・頭 頸部外科	300	補 科学研究費補助金
上気道慢性炎症でのリモデリングにおけるTGF β 1の役割	石永 一	耳鼻咽喉・頭 頸部外科	1,100	補 科学研究費補助金
糖尿病網膜症における小胞体ストレスの役割	生杉 謙吾	眼科	1,100	補 科学研究費補助金
拡張期心不全患者における運動耐用能と運動時拡張能の検討	田辺 正樹	感染制御部	1,700	補 科学研究費補助金
高齢うつ病の病態生理の解明(EEG/ERP)の双極子解析とMRIによる統括的研究	松本 卓也	精神科神経科	2,600	補 科学研究費補助金
がんワクチン療法患者における腫瘍破壊モニタリングとしての免疫応答拡大の測定	北野 滋久	北野 滋久	1,700	補 科学研究費補助金
心筋虚血再灌流障害の発生機序の研究ーTLR4のシグナル細胞内伝達経路の解明ー	庄村 心	システム神経 科学	900	補 科学研究費補助金
頭頸部血管病変に対する冷却バルーンの臨床応用及び頭頸部血管専用冷却バルーンの開発	藤本 昌志	脳神経外科学	2,100	補 科学研究費補助金
プロアテーゼ活性化受容体を標的とした椎間板変性に対する治療法の開発	明田 浩司	リハビリテー ション部	2,200	補 科学研究費補助金
臍帯血を用いる造血幹細胞移植技術の高度化と安全性確保に関する研究	東 英一	細胞移植療法 部	1,000	補 科学研究費補助金
医療安全に係るコミュニケーションスキルに関する研究ー患者ハラスメントに焦点をあててー	永見敏浩	安全管理部	2,000	補 科学研究費補助金
労働者のメンタルヘルス不調の予防と早期支援・介入のあり方に関する研究	竹村洋典	総合診療部	600	補 科学研究費補助金
小児がんに対する標準治療・診断確立のための研究	出口隆生	小児科	1,000	補 科学研究費補助金
重症難病患者の地域医療体制の構築に関する研究	成田有吾	医療福祉支援 センター	900	補 科学研究費補助金
健康小児を対象とした臨床試験[沈降不活化インフルエンザワクチン]	西川政勝	臨床研究開発 センター	10,300	補 科学研究費補助金
新型インフルエンザプレパレンダミックワクチンの安全性・免疫原性および交叉免疫性に関する研究	西川政勝	臨床研究開発 センター	18,750	補 科学研究費補助金
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	松峯昭彦	整形外科	600	補 科学研究費補助金

研 究 課 題 名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	山門亨一郎	放射線治療科	800	補 科学研究費補助金
NK細胞腫瘍に対する東アジア多国間治療研究	山口素子	血液内科	500	補 科学研究費補助金
分子基盤に基づく難治性リンパ系腫瘍の診断及び治療法の開発に関する研究	山口素子	血液内科	1,200	補 科学研究費補助金
リンパ系腫瘍に対する標準的治療確立のための多施設共同研究	山口素子	血液内科	1,200	補 科学研究費補助金
リアルタイムモニター花粉数の情報のあり方の研究と舌下ペプチド・アジュバント療法の臨床研究	湯田 厚司	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	2,500	補 科学研究費補助金
組織修復・再生を補足する機能性生体材料の開発	當麻 直樹	脳神経外科学	2,400	補 科学研究費補助金
神経変性疾患に関する調査研究	小久保 康昌	神経病態内科学	1,000	補 科学研究費補助金
肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症の院内発症予防ガイドライン公開後の評価ならびに改定と普及・推進に関する研究	中野 魁	名誉教授	1,100	補 科学研究費補助金
メタボリックシンドロームの保健指導に歯科的な観点を導入することの効果に関する研究	田川 俊郎	口腔・顎顔面外科学	700	補 科学研究費補助金
高感受性悪性腫瘍に対する標準的治療確立のための他施設共同研究	山口 素子	血液内科	1,200	補 科学研究費補助金
環境化学発がん物質の曝露評価法の開発と発がんリスク評価に関する研究	平工 雄介	環境分子医学	1,400	補 科学研究費補助金
早期前立腺がんにおける根治的術後の再発に対する標準的治療法の確立に関する研究	杉村 芳樹	腎泌尿器外科学	300	補 科学研究費補助金
抗腫瘍抗原ペプチドの臨床への導入に関する研究	影山 慎一	遺伝子・免疫細胞治療学講座	1,400	補 科学研究費補助金
転移性骨腫瘍に対する低侵襲手術の開発	内田 淳正	病態修復医学講座	3,500	補 科学研究費補助金
内分泌かく乱化学物質の生体影響メカニズムに関する総合研究	杉村 芳樹	腎泌尿器外科学	2,000	補 科学研究費補助金
血液凝固異常症に関する調査研究	和田 英夫	臨床検査医学	1,000	補 科学研究費補助金
思春期精神病理の疫学と精神疾患の早期介入方策に関する研究	谷井 久志	精神病態学	1,000	補 科学研究費補助金
労働者のメンタルヘルス不調の予防と早期支援介入のあり方に関する研究	岡田 元宏	精神病態学	1,200	補 科学研究費補助金
膝痛・腰痛・骨折に関する高齢者介護予防のための地域代表性を有する大規模住民コホート追跡研究	須藤 啓広	病態修復医学講座	5,000	補 科学研究費補助金
乳幼児突然死症候群(SIDS)における病態解明と臨床的対応および予防法開発とその普及啓発に関する研究	成田 正明	発生再生医学	1,200	補 科学研究費補助金
	83件		171,030	

2. 論文発表等の実績

雑誌等名	題名	発表者氏名	所属部門
Gastrointest Endosc (2009. 2. 26)	Wernicke's encephalopathy caused by pyloric stenosis after endoscopic submucosal dissection.	K. Takei	消化器内科
N Engl J Med 359: 293, 2008	Images in Clinical Medicine. Sclerosing Peritonitis.	K. Shiraki	消化器内科
Dev Cell: 787-797, 2008	Myosin Phosphatase-Targeting Subunit 1 Regulates Mitosis by Antagonizing Polo-like Kinase 1.	M. Ito	循環器内科
Hepatology 48: 70-79, 2008	Human Leukocyte Antigen Class II Associations with Hepatitis C Virus Clearance and Virus-specific CD4 T Cell Response Among Caucasians and African Americans.	K. Sugimoto	消化器内科
J Am Soc Nephrol 19: 1692-1700, 2008	Irradiation Prolongs Survival of Alport Mice.	K. Katayama	血液浄化療法部
Eur Heart J 29: 569, 2008	A Case of Clover-shaped Left Ventricular Non-compaction.	M. Ito	循環器内科
Radiology 247: 260-266, 2008	Early-stage Hepatocellular Carcinoma: Radiofrequency Ablation Combined with Chemoembolization versus Hepatectomy.	K. Shiraki	消化器内科
Atherosclerosis 196: 22-28, 2008	High Glucose Induces Plasminogen Activator Inhibitor-1 Expression through Rho/Rho-kinase-mediated NF- κ B Activation in Bovine Aortic Endothelial Cells.	M. Ito	循環器内科
Am Heart J 156: 1010-1018, 2008	Long-term Clinical Outcome after Intramuscular Implantation of Bone Marrow Mononuclear Cells (Therapeutic Angiogenesis by Cell Transplantation [TACT] trial) in Patients with Chronic Limb Ischemia.	M. Ito	循環器内科
Am J Cardiol 101: 1206-1212, 2008	Role of Radial Strain and Displacement Imaging to Quantify Wall Motion Dyssynchrony in Patients with Left Ventricular Mechanical Dyssynchrony and Chronic Right Ventricular Pressure Overload.	M. Ito	循環器内科
Am J Cardiol 102: 1545-1550, 2008	Relation of Elevation in Cardiac Troponin I to Clinical Severity, Cardiac Dysfunction, and Pulmonary Congestion in Patients with Subarachnoid Hemorrhage.	M. Tanabe	感染制御部
Aliment Pharmacol Ther 27: 1253-1260, 2008	Predictive Factors for Distant Recurrence of HCV-related Hepatocellular Carcinoma after Radiofrequency Ablation Combined with Chemoembolization.	K. Shiraki	消化器内科
Hypertens Res 31: 257-263, 2008	Patients with a Hypertensive Response to Exercise Have Impaired Left Ventricular Diastolic Function.	K. Dohi	循環器内科
Hypertens Res 31: 679-984, 2008	Exaggerated Hypertensive Response to Exercise in Patients with Diastolic Heart Failure.	K. Onishi	臨床検査医学
Hypertens Res 31: 1486, 2008	Response to: Study of Left Ventricular Long Axis Function in Patients with Hypertensive Response to Exercise.	K. Dohi	循環器内科
Hypertens Res 31: 1727-1735, 2008	Hemodynamic Characteristics of Patients with Diastolic Heart Failure and Hypertension.	N. Yamada	循環器内科
Int J Cardiol 127: e8-e11, 2008	Improvement of Left Ventricular Mechanical Dyssynchrony Associated with Restoration of Left Ventricular Function in a Patient with Fulminant Myocarditis and Complete Left Bundle Branch Block.	K. Dohi	循環器内科
Int J Cardiol 129: e21-e23, 2008	Two Cases of Dilated Cardiomyopathy with Right Ventricular Wall Degeneration Demonstrated by Late Gadolinium Enhanced MRI.	K. Onishi	臨床検査医学
Biochem Biophys Res Commun 368: 116-120, 2008	Role of Thrombin in Interleukin-5 Expression from Basophils.	O. Taguchi	呼吸器内科
Circ J 72: 287-292, 2008	The Günther-Tulip Retrievable IVC Filter: Clinical Experience in 118 Consecutive Patients.	M. Nakamura	病態解析内科学
Circ J 72: 378-383, 2008	Correlation between Late Gadolinium Enhancement and Diastolic Function in Hypertrophic Cardiomyopathy Assessed by Magnetic Resonance Imaging.	K. Onishi	臨床検査医学
Int J Oncol 33: 929-936, 2008	Dual Topology of Functional Toll-like-receptor 3 Expression in Human Hepatocellular Carcinoma; Differential Signaling Mechanisms of TLR3-induced NF- κ B Activation and Apoptosis.	K. Shiraki	消化器内科
Respir Med 102: 1287-1295, 2008	A Prospective Comparison of Nursing Home-acquired Pneumonia with Hospital-acquired Pneumonia in Non-intubated Elderly.	O. Taguchi	呼吸器内科
J Am Soc Echocardiogr 21: 1382-1388, 2008	Echocardiographic Speckle Tracking Radial Strain Imaging to Assess Ventricular Dyssynchrony in a Pacing Model of Resynchronization Therapy.	M. Tanabe	感染制御部

雑誌等名	題名	発表者氏名	所属部門
Thromb Res 121: 849-854, 2008	ADAMTS13 Related Markers and Von Willebrand Factor in Plasma from Patients with Thrombotic Microangiopathy (TMA).	S. Nomura	血液浄化療法部
Int J Mol Med 22: 43-48, 2008	Protective role of interleukin-18 against Fas-mediated liver injury.	K. Shiraki	消化器内科
J Gastroenterol Hepatol 23: 482-490, 2008	Survival Rates According to the Cancer of the Liver Italian Program Scores of 345 Hepatocellular Carcinoma Patients after Multimodality Treatments during a 10-year Period in a Retrospective Study.	K. Shiraki	消化器内科
Int J Hematol 87: 250-255, 2008	Negative Predictive Value of D- dimer for Diagnosis of Venous Thromboembolism.	N. Yamada	循環器内科
Int J Hematol 88: 448-453, 2008	Elevated Levels of Soluble Fibrin in Patients with Venous Thromboembolism.	M. Ito	循環器内科
Echocardiography 25: 864-872, 2008	Normal Range of Mechanical Variables in Pulmonary Hypertension: A Tissue Doppler Imaging Study.	K. Dohi	循環器内科
Clin Appl Thromb Hemost 14: 279-285, 2008	Elevated Levels of Prothrombin Fragment 1 + 2 Indicate High Risk of Thrombosis.	N. Yamada	循環器内科
Postgrad Med J 84: 40-45, 2008	Defining Normal Variables of Right Ventricular Size and Function in Pulmonary Hypertension: an Echocardiographic Study.	K. Dohi	循環器内科
Internal Med 47: 119, 2008	Phytobezoars.	K. Shiraki	消化器内科
Internal Med 47: 419-420, 2008	Primary Biliary Cirrhosis Following Chemotherapy for Hodgkin's Lymphoma.	N. Yamamoto	消化器内科
Intern Med 47: 747-749, 2008	Type 1 Diabetes Mellitus Provoked by Peginterferon α -2b Plus Ribavirin Treatment for Chronic Hepatitis C.	N. Yamamoto	消化器内科
Hepatogastroenterology 55: 1407-1411, 2008	Splenectomy Improves Liver Function in Patients with Liver Cirrhosis.	K. Shiraki	消化器内科
Vasc Dis Prevent 5: 81-88, 2008	Cutoff Values of D-Dimer and FDP in Plasma for the Diagnosis of Thrombosis.	N. Yamada	循環器内科
Vasc Dis Prevent 5: 227-233, 2008	Elevated Levels of Soluble Fibrin in Patients with Thrombosis or a Pre- Thrombotic State.	N. Yamada	循環器内科
World J Gastroenterol 14: 941-943, 2008	Familial Occurrence of Congenital Bile Duct Dilatation.	K. Shiraki	消化器内科
Clin Exp Nephrol 12: 421-431, 2008	Proposal of Podocytic Infolding Glomerulopathy as a New Disease Entity: a Review of 25 Cases from Nationwide Research in Japan.	S. Nomura	血液浄化療法部
Clin Exp Nephrol 12: 513-517, 2008	Unusual Glomerulopathy with Aggregated Subepithelial Microspheric Particles Resembling Membranous Nephropathy: a Variant of Glomerulopathy Associated with Podocytic Infolding?	S. Nomura	血液浄化療法部
J Artif Organs 11: 165-169, 2008	Molecular Weight of Polydisperse Icodextrin Effects Its Oncotic Contribution to Water Transport.	S. Nomura	血液浄化療法部
Circ J 71: 327-330, 2008	Higher Serum Tenascin-C Levels Reflect the Severity of Heart Failure, Left Ventricular Dysfunction and Remodeling in Patients with Dilated Cardiomyopathy.	K. Onishi	臨床検査医学
Blood (2009. 1)	Gene expression profiling of peripheral T-cell lymphoma including gammadelta T-cell lymphoma.	K. Miyazaki	血液・腫瘍内科
Br J Haematol (2008. 8)	Gene expression profiling of diffuselarge B-cell lymphoma superrised by CD21 expression.	K. Miyazaki	血液・腫瘍内科
Hematologica (2008. 8)	De novo CD5+ diffuse large B-cell lymphoma: results of a detailed clinicopathological review in 120 patients.	M. Yamaguchi	血液・腫瘍内科
Cancer Sci (2008. 5)	Phase I study of dexamethasone, methotrexate, ifosfamide, L-asparaginase, and etoposide (SMILE) chemotherapy for advanced-stage, relapsed or refractory extranodal natural killer (NK)/T-cell lymphoma and lenkenia.	M. Yamaguchi	血液・腫瘍内科
臨床病理 (2008. 4)	脂肪抑制MRI T2強調画像で病巣側に“tram-tracle” signと“dunut configuration” がみられたTolosa-Hun症候群.	A. Tamura	神経内科
J Neurol Sci. 276:148-52	Care burden and depression in caregivers caring for patients with intractable neurological diseases at home in Japan.	Y. Narita	神経内科
J. Clin Neuromuscul Dis 10(2):37-41	Inter-examiner variance of median nerve compound muscle action potential measurements in hand position with and without fixation in plaster.	Y. Narita	神経内科

雑誌等名	題名	発表者氏名	所属部門
Mov Disord. 23:2344- 2348, 2008	Mutation analyses in amyotrophic lateral sclerosis/parkinsonism-dementia complex of Kii, Japan.	Y. Kokubo	神経内科
Mov Disord. 24:1:123- 126, 2008	Increased oxidative stress in patients with amyotrophic lateral sclerosis/parkinsonism-dementia complex in the Kii peninsula, Japan.	Y. Kokubo	神経内科
The Neurologist 2009 Jul;15(4):220-2	Juvenile Muscular Atrophy of the Distal Upper Extremity (Hirayama Disease) in Two Lanky Look-Alike Brothers.	Y. Kokubo	神経内科
Eur Neurol 2009;61:50-51	Anti-N-methyl-D-aspartate receptor-related grave but reversible encephalitis with ovarian teratoma in two Japanese women presenting with excellent recovery without tumor resection.	Y. Kokubo	神経内科
Am J Med Genet Part B Neuropsychiatric Genetics	TRPM7 is not associated with amyotrophic lateral sclerosis-parkinsonism dementia complex in the Kii peninsula of Japan.	Y. Kokubo	神経内科
Rheumatology International 2008;28:1277- 1280	Reversible stenosis of large cerebral arteries in a patient with combined Sjogren's syndrome and neuromyelitis optica spectrum disorder.	Y. Ii	神経内科
Journal of Clinical Neuroscience 2009;16:106-107	Cervical spinal cord infarction in a patient with cervical spondylosis triggered by straining during bowel movement.	Y. Ii	神経内科
神経治療学 2008, 25:157-162	S状結腸軸捻転を繰り返した日本脳炎後パーキンソンニズムの一例	H. Naitou	神経内科
神経治療学 2008, 25:405-408	運動ニューロン疾患の治療の進歩	H. Naitou	神経内科
Lung Cancer. 2009 Jan;63(1):39-44	Immunohistochemical diagnosis of methylthioadenosine phosphorylase (MTAP) deficiency in non-small cell lung carcinoma.	F. Watanabe	呼吸器外科
日本呼吸器外科学 会誌(2009.1)	呼吸器外科手術後、肺血栓栓症とその予防対策.	N. Takao	呼吸器外科
J Thorac Cardiovasc Surg. 2009 Mar;137(3):730-5	Removal of prostaglandin E2 and increased intraoperative blood pressure during modified ultrafiltration in pediatric cardiac surgery.	K. Yokoyama	心臓血管外科
J Vasc Surg (2008.11)	Basic fibroblast growth factor slow release stent-graft for endovascular aneurysm repair.	M. Kajimoto	心臓血管外科
Ann Thorac Cardiovasc Swg (2008.8)	Inhibition of platelet aggregation by combined therapy with aspirin and cilostazol after off-pump coronary artery bypass surgery.	K. Onoda	心臓血管外科
Orthopedics (2008.4)	Bilateral subchondral insufficiency fracture of the femoral head.	A. Sudou	整形外科
J Orthop Sci (2008.9)	Unilateral stress fracture of the femoral shaft combined with contralateral insufficiency fracture of the femoral shaft after bilateral total knee arthroplasty.	R. Niimi	整形外科
J Orthop Surg Res (2008.9)	Prevalence and risk factors for knee osteoarthritis in elderly Japanese men and women.	A. Sudou	整形外科
J Orthop Surg Res (2008.9)	Tadpole system as new lumbar spinal instrumentation.	Y. Kasai	整形外科
Knee (2008.12)	Total knee arthroplasty in osteogenesis imperfecta.	A. Nishimura	整形外科
J Orthop Surg Res (2008.7)	Long-term results of bipolar hemiarthroplasty for osteoarthritis of the femoral head.	S. Muraki	整形外科
In Vivo (2008.5)	Methylene blue in place of acridine orange as a photosensitizer in photodynamic therapy of osteosarcoma.	T. Matsubara	整形外科
J Cancer Res Clin Oncol (2008.10)	Usefulness of limb salvage surgery for bone and soft tissue sarcomas of the distal lower leg.	R. Niimi	整形外科
J Surg Oncol (2008.5)	A new limb salvage surgery in cases of high-grade soft tissue sarcoma using photodynamic surgery, followed by photodynamic therapy with acridine orange.	T. Nakamura	整形外科
Arch Orthop Trauma Surg (2008.7)	Subchondral insufficiency fracture of the second metatarsal head in an elderly woman treated with autologous osteochondral transplantation.	M. Tsujii	整形外科
Liver Int 2009.2	Activated protein C prevents hepatic ischaemia-reperfusion injury in rats.	N. Kuriyama	肝胆膵外科

雑誌等名	題名	発表者氏名	所属部門
J Hepato-biliary Pancreat S 2009. 3	Tissue factor expression demonstrates severe sinusoidal endothelial cell damage during rejection after living-donor liver transplantation.	M. Usui	肝胆膵外科
Clin Transplant, 2009. 3	Assessment of liver graft function and regeneration by galactosyl-human serum albumin (99mTc-GSA) liver scintigraphy in adult living-donor liver transplantation.	S. Isaji	肝胆膵外科
J Thromb Haemost, 2008. 11	Regulatory mechanisms of C4b-binding protein (C4BP)alpha and beta expression in rat hepatocytes by lipopolysaccharide and interleukin-6.	M. Kishiwada	肝胆膵外科
Disease of Colon and Rectum (2008. 4)	Surgical intervention for neonatal and infantile-onset severe colonic Crohn's disease: report of three cases.	K. Uchida	小児外科
Annals of Surgical Oncology (2008. 7)	Soluble intercellular adhesion molecule-1 as a prognostic marker for stage II colorectal cancer patients. Ann Surg Oncol.	Y. Toiyama	消化管外科
International Journal of Oncology (2008. 6)	Mechanism of resistance to chemoradiation in p53 mutant human colon cancer.	J. Hiro	消化管外科
Surgery Today (2008. 8)	Simplification of total mesorectal excision with colonic J-pouch anal anastomosis for middle and lower rectal cancer: one surgeon's experience.	M. Kusunoki	消化管外科
Clinical Oncology (2008. 10)	Mitotic checkpoint genes, hSMAD2 and BubR1, in oesophageal squamous cancer cells and their association with 5-fluorouracil and cisplatin-based radiochemotherapy.	K. Tanaka	消化管外科
Plast Reconstr Surg (2008. 11)	Efficacy of dermabond for closing lymphatic leakage after resection and OK-432 treatment of a lymphangioma.	K. Uchida	小児外科
Journal of Gastroenterology (2008. 10)	Neutrophil-related immunoinflammatory disturbance in steroid-overdosed ulcerative colitis patients.	S. Yoshiyama	消化管外科
International Journal of Gynecological Cancer 18 181-184 2008	Carboplatin chemotherapy in a pregnant patient with undifferentiated ovarian carcinoma: case report and review of the literature.	T. Tabata	産婦人科
DIABETES RESEARCH AND CLINICAL PRACTICE 80 e9-e11 2008	Rapid overgrowth of a fetus after interruption of insulin therapy in a diabetic woman.	T. Sugiyama	周産母子センター
Cytopathology 19 28-33 2008	What is the best method of detecting endometrial cancer in outpatients?-endometrial sampling, suction curettage, endometrial cytology.	E. Kondo	産婦人科
Endocrinology 149(8) 3980-3988 2008	Overexpression of Thioredoxin-1 Reduces Oxidative Stress in the Placenta of Transgenic Mice and Promotes Fetal Growth via Glucose Metabolism.	T. Umekawa	周産母子センター
Cytopathology 2008	Fine needle aspiration cytology of malignant mixed tumour of the vulva.	T. Tabata	産婦人科
ANTICANCER RESEARCH 28 3971-3976 2008	Weekly Low-dose Paclitaxel and Carboplatin Therapy in Gynecological Cancer Patients with Venous Thrombosis.	T. Tabata	産婦人科
J Thromb Haemost 2008 Jun	Protease activated receptor 1 activation of platelet is associated with an increase in protein kinase CK2 activity.	Y. Komada	小児科
Circulation 2008 Apr	Images in cardiovascular medicine. Fatal pulmonary lymphangiectasia manifesting after repeated surgeries for intractable chylopericardium and chylothorax in a 20-month-old girl.	Y. Mitani	周産母子センター
Cardiovasc Thorac Surg 2008 Apr	Pulmonary artery growth after Norwood and bidirectional Glenn procedure Interact.	Y. Mitani	周産母子センター
Pediatr Blood Cancer 2008 Sep	Recurrent melanotic neuroectodermal tumor in the orbit successfully treated with resection followed by pediculated periosteal flaps.	H. Hori	小児科

雑誌等名	題名	発表者氏名	所属部門
Pediatr Int 2008 Jun	Persistent lung shadow in an infant with ventricular septal defect and partial anomalous pulmonary venous connection associated with pulmonary venous obstruction.	Y. Mitani	周産母子センター
Exp Hematol 2008 Oct	Resistance to TRAIL-induced apoptosis caused by constitutional phosphorylation of Akt and PTEN in acute lymphoblastic leukemia cells.	Y. Komada	小児科
J Thorac Cardiovasc Surg 2008 Jul	Atrial natriuretic peptide gene transfection with a novel envelope vector system ameliorates pulmonary hypertension in rats.	Y. Mitani	周産母子センター
J Pediatr Hematol Oncol 2008 Dec	Early detection of breakthrough trichosporonosis by serum PCR in a cord blood transplant recipient being prophylactically treated with voriconazole.	T. Kumamoto	小児科
Pediatr Int 2009 Mar	Quantitative detection of HCMV DNA in saliva from infants and breast milk by real time PCR assay.	Y. Komada	小児科
J Thorac Cardiovasc Surg 2009 Mar	Removal of prostaglandin E2 and increased intraoperative blood pressure during modified ultrafiltration in pediatric cardiac surgery.	Y. Mitani	周産母子センター
Exp Dermatol. 2009 Mar 16	Pilomatricoma can differentiate not only towards hair matrix and hair cortex, but also follicular infundibulum, outer root sheath and hair bulge.	I. Kurokawa	皮膚科
J Dermatol. 2009 Feb;36(2):86-9	Case of creeping disease treated with ivermectin.	Y. Senda	皮膚科
Arch Dermatol Res. 2009 Feb;301(2):151-7	Administration of Ag85B showed therapeutic effects to Th2-type cytokine-mediated acute phase atopic dermatitis by inducing regulatory T cells.	H. Mori	皮膚科
Int J Mol Med. 2008 Jul;22(1):43-8	Protective role of interleukin-18 against Fas-mediated liver injury.	N. Yamamoto	皮膚科
Arch Dermatol Res. 2008 Aug;300(7):343-52.	Enhanced production and secretion of glial cell line-derived neurotrophic factor and nerve growth factor from the skin in atopic dermatitis mouse model.	K. Tokime	皮膚科
J Dermatol Sci. 2008 Jul;51(1):19-29	Freshly isolated Langerhans cells negatively regulate naïve T cell activation in response to peptide antigen through cell-to-cell contact.	Y. Imai	皮膚科
Urology View (2008.12)	特集 副腎腫瘍Update : 副腎腫瘍に対するRadiofrequency凝固療法	K. Arima	腎泌尿器外科
泌尿器外科 (2008.9)	解放手術からミニマム創内視鏡下手術への移行 -根治的腎摘除術におけるミニマム創内視鏡下手術と腹腔鏡下手術との比較-	N. Soga	腎泌尿器外科
泌尿器科紀要 (2008.9)	抗凝固療法施行症例に対する光選択式前立腺蒸散術 (PVP) の臨床成績	Y. Hori	腎泌尿器外科
International Journal of Urology (2008.11)	Comparison of radical nephrectomy under the minimal incision with portless endoscopic surgery (PLES) versus transperitoneal laparoscopic surgery.	N. Soga	腎泌尿器外科
International Journal of Urology (2008.11)	Photoselective Vaporization of the Prostate (PVP) Using High Power (80W) KTP Laser. -One year follow-up of the first 101 patients in Japan-	Y. Hori	腎泌尿器外科
Current Eye Res (2008.12)	The effect of the Rho-associated protein kinase inhibitor, HA-1077, in the rabbit ocular hypertension model induced by water loading.	K. Ikesugi	眼科
Current Eye Res (2009.1)	The effect of the H-1152P, a potent Rho-associated coiled-former protein kinase inhibitor, in the rabbit normal and ocular hypertension eyes.	M. Nishio	眼科
J C B (2008.9)	The keratin-binding protein Albatross regulates proliferation of epithelial cells.	M. Sugimoto	眼科
日本血管内治療学 会誌 9(1):4- 10, 2008	E D コイル10タイプを用いた脳動脈瘤コイル塞栓術の臨床評価	H. Sakaida	脳神経外科
Surg Neurol. 70(3):279- 85, 2008	Periprocedural hemodynamic instability with carotid angioplasty and stenting.	M. Taha	脳神経外科
Brain Res 1241:188-92, 2008	Stereo-selective neuroprotection against stroke with vitamin A derivatives.	Y. Satou	脳神経外科
Brain Res 1213:140-51, 2008	Unilateral hippocampal CA3-predominant damage and short latency epileptogenesis after intra-amygdala microinjection of kainic acid in mice.	M. Mouri	脳神経外科

雑誌等名	題名	発表者氏名	所属部門
Clinical Neuroscience 26 (12):1387-1390, 2008	脳動脈瘤の脳血管内外科的治療法 脳血管内手術 の歴史	H. Sakaida	脳神経外科
Progress in Medicine, 28(10): p2566-2568, 2008	無症候性錐体部内頸動脈狭窄症に対するシロスタゾール (プレタール) の使用経験	N. Touma	脳神経外科
救急医学 32: 1561-1566, 2008	頸部頸動脈狭窄症に対する急性期治療 頸動脈ステント	K. Hamada	脳神経外科
Family Medicine (2008. 4)	Which medical interview behaviors are associated with patient satisfaction?	Y. Takemura	総合診療科
J Gene Med (2008)	Bax mRNA therapy using cationic liposomes for human malignant melanoma.	T. Tagawa	歯科口腔外科
口腔組織培養学会誌 (2008)	悪性黒色腫細胞へのphosphodiesterase2A遺伝子導入	T. Murata	歯科口腔外科
日本検査血液学会雑誌 2008:9(3):379-385	血栓・止血異常症診療センターにおける血栓性素因の診療	H. Wada	臨床検査医学
Eur Heart J. 2009 Feb;30(4):444-52	Regional myocardial perfusion reserve determined using myocardial perfusion magnetic resonance imaging showed a direct correlation with coronary flow velocity reserve by Doppler flow wire.	H. Sakuma	画像診断科
J Magn Reson Imaging. 2009 Jan;29(1):205-10	Absolute blood contrast concentration and blood signal saturation on myocardial perfusion MRI: estimation from CT data.	M. Ishida	画像診断科
Eur Radiology 2008 Dec;18:2808	Diagnostic accuracy of stress myocardial perfusion MRI.	K. Kitagawa	画像診断科
Cardiovasc Intervent Radiol. 2009 Jan;32(1):70-5.	Percutaneous radiofrequency ablation of painful spinal tumors adjacent to the spinal cord with real-time monitoring of spinal canal temperature.	A. Nakatsuka	I V R 科

計 130件

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 竹田 寛			
管理担当者氏名	中央放射線部長 総務課長 安全管理部長 感染制御部長	佐久間 肇 臼井 清 竹井 謙之 竹井 謙之	薬剤部長 医療サービス課長 医療福祉支援センター長 臨床工学部長	奥田 真弘 金永 博行 内田 恵一 伊佐地秀司

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院治療計画書		各診療科	カルテは、外来：一患者各診療科カルテ、入院：一患者共通カルテ方式をとっている。 カルテは、①外来患者は外来カルテ庫、②入院患者は入院中は各科病棟、退院後は病歴室に保管。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業員者数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	医療サービス課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医療サービス課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービス課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療サービス課 薬剤部	
安規全則管第9条のため2の3体及び制確保の11条各号に掲げる	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療サービス課 安全管理室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療サービス課 安全管理室	
	当該病院内に患者からの相談に適切に応じる体制の確保状況	医療サービス課 医療福祉支援センター	
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療サービス課 安全管理室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	総務課 医療サービス課 安全管理室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	総務課 医療サービス課 安全管理室	

医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療サービス課 安全管理室
院内感染のための指針の策定状況	総務課
院内感染対策のための委員会の開催状況	総務課
従業員に対する院内感染対策のための研修の実施状況	総務課
感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	総務課
医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	総務課
従業員に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	総務課 薬剤部
医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	総務課
従業員に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	総務課 臨床工学部
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	経営管理課 臨床工学部
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 竹田 寛
閲覧担当者氏名	総務課長 白井 清
閲覧の求めに応じる場所	医学部応接室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	73.7%	算定期間	平成20年 4月 1日～平成21年 3月31日	
算 出 根 拠	A:紹介患者の数	9,618人		
	B:他の病院又は診療所に紹介した患者の数	7,803人		
	C:救急用自動車によって搬入された患者の数	282人		
	D:初診の患者の数	16,204人		

(様式13-2)

規則第9条の23及び第11条各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (3名) ・ 無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (2名) ・ 無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
・所属職員 専任(3名) 兼任(11名) ・活動の主な内容： 安全管理部 (危機管理委員会として平成12年6月12日設置、平成13年6月19日安全管理委員会に委員会名変更、平成14年4月1日同委員会を廃止し、安全管理室を設置、平成19年1月1日安全管理部に改組) 病院内における医療事故の防止及び医療の安全性の確保のため、安全且つ適切な医療体制を確立する。	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
・指針の主な内容 ○安全管理に関する基本的な考え方 別添資料 1 ○医療に係る安全管理のための指針 別添資料 2 ○安全管理に係る組織図 別添資料 3 ○医療問題対策委員会内規 別添資料 4 ○安全管理部内規 別添資料 5 ○重大インシデント発生時の院内連絡体制 別添資料 6 ○医療の質・倫理検討委員会内規 別紙資料 7	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	
○医療問題対策委員会 年11回(平成20年度) ○安全管理部会議 年19回(平成20年度) ○リスクマネージャー会議 年6回(平成20年度) ○医療の質・倫理検討委員会 年12回(平成20年度) ・活動の主な内容 ○医療問題対策委員会 医療法制に関する事項、医療事故の予防に関する事項、医療事故発生時の対策に関する事項、医療紛争の処理に関する事項及び医療訴訟に関する事項の審議を行う。 ○安全管理部会議 インシデントレポートの収集と管理、報告された事故の原因や状況の分析、原因分析の結果を踏まえて事故発生の防止策と事故発生後の対応策を講じ、必要な情報を現場のスタッフにフィードバックする。 また、医療事故防止に係る病院内の巡視・点検・評価に関すること、医療事故防止にかかわる業務改善の提言・指導に関すること、安全管理に係わる教育・研修・啓発に関すること、医療事故防止対策マニュアルに関すること、ヒヤリハットニュースの発行に関すること、リスクマネージャー会議に関すること。 ○リスクマネージャー会議 医療問題対策委員会及び安全管理室会議において決定した事故防止策・対応策等の必要な情報を医療現場に周知徹底させる。 ○医療の質・倫理検討委員会 死亡例及び重症合併症例の検討、先端医療、終末期医療、診療拒否、移植医療、その他の倫理的問題について審議する。	

⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2回
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容 従業者の医療安全に関する意識向上を図っている。 (全職員対象とは別に新規採用者のみを対象とした医療安全研修会及び全職員を対象とした医療事故被害者による講演等) 	
⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○ヒヤリハットニュースを発行(月1回及び必要に応じて随時)し、リスクマネージャー会議を開催(年6回)することにより、リスクマネージャーを通じて、インシデントレポートから積極的に収集した情報並びに医療問題対策委員会、医療の質・倫理検討委員会及び安全管理部会議において決定した事故防止策・対応策等の必要な情報を医療現場に周知徹底する。 ○各医療現場のリスクマネージャーにより、医療事故の原因及び防止方法並びに医療体制の改善方法について独自に検討及び提言を行う。 ○各医療現場のリスクマネージャーにより、独自に事故防止のための研修会及び勉強会を開き、医療事故防止のための啓蒙活動を行う。 	

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 ・ 無																				
<p>・指針の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策に関する基本的な考え方 2. 委員会等の組織に関する基本的事項 3. 職員研修に関する基本方針 4. 発生状況の報告に関する基本方針 5. 感染発生対応に関する基本方針 6. 指針の閲覧に関する基本方針 7. その他の必要な基本方針 																					
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 1 回																				
<p>・活動の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染の実態の把握，薬剤耐性の動向その他院内感染のための調査，研究を行う。 2. 感染症患者及び健康保菌者等の取扱い，滅菌及び消毒，清潔区域及び医療材料の清潔保持その他院内感染防止のための予防対策を行う。 3. 院内感染防止についての指針の作成及び職員の教育，指導を行う。 <table border="1" data-bbox="363 1025 1291 1274" style="margin: 10px auto;"> <tr> <td colspan="2">直近開催日</td> <td colspan="2">平成 2 1 年 7 月 1 4 日 (出席委員数 8 人 / 9 人中)</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">過去 6 ケ月の出席委員数</td> </tr> <tr> <td>(出席委員数</td> <td>9 人 / 9 人中)</td> <td>(出席委員数</td> <td>8 人 / 9 人中)</td> </tr> <tr> <td>(出席委員数</td> <td>8 人 / 9 人中)</td> <td>(出席委員数</td> <td>8 人 / 9 人中)</td> </tr> <tr> <td>(出席委員数</td> <td>8 人 / 9 人中)</td> <td>(出席委員数</td> <td>8 人 / 9 人中)</td> </tr> </table>		直近開催日		平成 2 1 年 7 月 1 4 日 (出席委員数 8 人 / 9 人中)		過去 6 ケ月の出席委員数				(出席委員数	9 人 / 9 人中)	(出席委員数	8 人 / 9 人中)	(出席委員数	8 人 / 9 人中)	(出席委員数	8 人 / 9 人中)	(出席委員数	8 人 / 9 人中)	(出席委員数	8 人 / 9 人中)
直近開催日		平成 2 1 年 7 月 1 4 日 (出席委員数 8 人 / 9 人中)																			
過去 6 ケ月の出席委員数																					
(出席委員数	9 人 / 9 人中)	(出席委員数	8 人 / 9 人中)																		
(出席委員数	8 人 / 9 人中)	(出席委員数	8 人 / 9 人中)																		
(出席委員数	8 人 / 9 人中)	(出席委員数	8 人 / 9 人中)																		
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回																				
<p>・研修の主な内容</p> <p>従業者の感染管理に関する知識向上を図っている。 (手洗いの重要性・スタンダードプリコーションの遵守・結核について・新型インフルエンザ等)</p>																					
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況																					
<p>・病院における発生状況の報告等の整備 (有 ・ 無)</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の感染対策強化を図るために，感染対策研修会 (毎月1回) を行っている。 																					

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有 ・ 無
② 従業者に対する医薬品の安全管理のための研修の実施状況	年1回 (同一内容で5回実施)
<p>・研修の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 麻薬の取扱いについて 2. 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書について 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・手順書の作成 (有 ・ 無)</p> <p>・業務の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の採用・購入に関する事項 2. 医薬品の管理に関する事項 (麻薬等の管理方法等) 3. 患者の持参薬歴情報の収集方法、処方箋の記載方法 4. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 5. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 6. 他施設 (病院等、薬局等) との関係に関する事項 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医薬品に係る情報の収集の整備 (有 ・ 無)</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <p>【収集方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品に係る添付文書等の収集 2. メーカー等から収集 3. インターネット、文献等からの収集 <p>【周知方法等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬剤部発行の院内医薬品情報誌に掲載し周知 2. オンライン医薬品集に「お知らせ」として掲載し周知 3. 必要に応じて院内メール、文書等の通知にて周知 4. 病棟担当薬剤師がカンファレンス等にて説明し周知 <p>【改善方法等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 業務実施状況を確認し、必要に応じて手順書の改定を行う 	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有 ・ 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年6回
<p>・研修の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 有効性、安全性に関する事項 2. 使用方法に関する事項 3. 保守点検に関する事項 4. 不具合が発生した場合の対応に関する事項 5. 使用に関して特に法令上遵守すべき事項 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・計画の作成 (有 ・ 無)</p> <p>・保守点検の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. メーカー提供の点検マニュアル及びメーカー指示に従い実施 2. 日常点検を実施し、異常があればメーカー点検・修理 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医療機器に係る情報の収集の整備 (有 ・ 無)</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 装置毎に添付文書・保守点検マニュアル及び安全性情報を冊子として配布。 2. 管理、機器に関わる者に関してはWG等を設置し周知徹底を行う。 	

安全管理に関する基本的な考え方

三重大学医学部附属病院の基本理念

1 患者様本意の医療

患者様の信頼と満足が得られる最高・最良の医療を安全に提供します。

2 地域と世界の医療への貢献

地域医療に貢献し、医学・医療の国際交流に努めます。

3 臨床研究と人材育成の促進

未来を拓く臨床研究を推進し、次代を担う優れた医療人を育成します。

医学・医療の根元的目標は、健康を守り増進させ病を癒すことです。高度先進医療機関で教育と研究をも担っている大学病院も例外ではなく、最も基本的な使命は、患者様に最高・最先端の医療を「安全第一に」提供することです。

本院では、この使命と基本理念に沿って「患者様自身の自己決定権と地域社会のニーズを尊重し、高度先進医療からプライマリーケアまで、心温まる患者様中心の全人的・総合的・学際的医療を提供する」ことを目標に掲げ、診療活動に携わっています。また診療活動を通じて、高度な倫理観に裏打ちされた優れた医療人の育成を目指しています。

しかし近年は、医療の現場で生命を脅かすような事故や院内感染が多発し、社会的に大きな問題になっています。これらの多くは大学病院や地域の中核病院であり、複雑で困難な病気を持った患者様の受け皿となって高度医療を実践し、研修医や若い医療スタッフの養成にも大きなエネルギーを注いでいる医療機関です。複雑な医療を実践しているこのような大病院では、大きな事故が発生しやすいリスクは必然的に高くなりますので、安全管理には一層力を入れる必要があります。

本院では平成 12 年 10 月に発生した輸血事故を契機に、それまでの安全管理体制を大幅に見直しました。その結果、ミスや事故を起こさない個人を養成する教育だけでは不十分であるとの認識のもとに、たとえ個人のレベルでミスが発生しても、それが大きな事故に進展しない安全着地装置をシステムとして構築する、という二面作戦に切り替えました。

つまり、「ミスは何時でも、何処でも、誰にでも起こる」ということを前提に、「ミスは人の常、安全は組織の知恵」という思想に立脚した安全管理体制の構築です。それを組織的に保証する機関として平成 14 年度に「安全管理室」を設置し、診療担当副院長を責任者にして、専任の医師と看護師長を配置しました。安全管理室がリーダーシップをとって、「ミスを起こさない個人を育成する」職員研修、「個人のミスをチームとしてカバーし事故に進展させない」ためのチームづくりとリーダーであるリスクマネージャーの養成を実施し、病院全体として「ヒヤリハット報告」の活用、「ミスを事故に発展させない」システムづくり、さらに問題発生時の迅速な対応と予防対策に取り組むことができるようになり、本院の安全管理システムは飛躍的に強化されました。

今後も気を緩めることなく、全職員が一丸となって安全管理体制に取り組み、患者様にもご協力いただいて、良質で最高水準の高度医療を安全に提供することにより、信頼され満足いただける医療を築いていきたいと思っております。

平成 16 年 9 月 病院長

第一章 三重大学医学部附属病院医療に係る安全管理のための指針

第1 安全管理に関する基本的な考え方

安心できる医療環境のもとで良質で高度な医療を適切に提供することは三重大学医学部附属病院の理念であり、その根幹をなすものは「安全性」の確保である。未然に事故を防止することは医療機関の責務であり、特定機能病院には一般病院以上に安全管理体制の整備・充実が求められている。

このために、安全管理に関する院内の責任体制を明確にし、「良質で高度な医療の提供」に際して求められる安全確保のための指針を制定する。

第2 安全管理のための委員会、その他医療機関内の組織に関する基本的事項

- 1 医療に係る安全管理体制の最高決定機関として安全管理に関わる部門の責任者等で構成する三重大学医学部附属病院医療問題対策委員会（以下「医療問題対策委員会」という。）を置き、病院長を委員長とし委員で構成する委員会を月1回以上開催する。医療問題対策委員会に関し必要な事項は、三重大学医学部附属病院医療問題対策委員会内規に定める。
- 2 安全管理推進の確保のため、ゼネラルリスクマネージャー及びその他各部門の安全管理責任者等で構成する三重大学医学部附属病院安全管理室（以下「安全管理室」という。）を置く。室員で構成する安全管理室会議を月2回以上開催する。安全管理室に関し必要な事項は、三重大学医学部附属病院安全管理室内規に定める。
- 3 医療に係る安全管理を専任で行う者としてゼネラルリスクマネージャーを置く。ゼネラルリスクマネージャーの業務等については、三重大学医学部附属病院安全管理室内規に定める。
- 4 医療現場での事故防止、安全管理の中心的な役割を担う者として、院内各部門にリスクマネージャーを置く。
- 5 医療の現場で具体的な安全対策を推進し、安全性の高い医療を提供するために安全管理室の下にリスクマネージャー会議を定期的で開催する。リスクマネージャー会議に関し必要な事項は三重大学医学部附属病院安全管理室内規に定める。
- 6 患者様等から苦情、相談に適切に応じる体制を確保するため三重大学医学部附属病院医療福祉支援センター（以下「支援センター」という。）を設置し、その活動を本院の安全対策等の見直しに活用するものとする。
支援センターの活動の趣旨、設置場所、担当者及びその責任者、対応時間等については、院内に明示し周知を図る。
その他、支援センターの設置に関し必要な事項は三重大学医学部附属病院医療福祉支援センター規程に定める。

7 その他本院における医療に係る安全管理体制に関し必要な事項は三重大学医学部附属病院安全管理室内規に定める。

第3 安全管理のための職員研修に関する基本方針

- 1 医療の安全管理のための職員研修（以下「研修」という。）は全職員を対象として年2回以上開催する。必要に応じ医療に係る安全管理のための基本的考え方及び具体的方策について職員に周知徹底を行うことで個々の職員の安全に対する意識、安全に業務を遂行するための技能やチームの一員としての意識向上を図る。
- 2 研修参加者の学習達成の評価とともに具体的・現実的な目標を定め、目標達成の観点から評価する。
- 3 研修の実施内容や参加状況を記録に残し、それらの記録の積み重ねから研修の質的充実を図る。
- 4 その他研修に関し必要な事項は、安全管理室で定める。

第4 医療機関内における事故報告書等の医療に係る安全確保のための改善策に関する基本方針

安全管理室は、あらかじめ定められた手順により報告されたインシデントや医療事故及び他機関での医療の安全管理に関する事例の収集・分析に基づき、医療の安全管理の問題点を把握し病院全体の医療の安全管理や改善策の具体的な実践を指導監督するとともに、その実施状況を評価する。

第5 医療事故等発生の対応に関する基本方針

- 1 本院において医療事故が発生した場合、当事者は必要と考えられる医療上の最善の処置を講じ、患者様及び御家族等に誠実で適切な対応をするとともに、あらかじめ定められた手順により速やかに病院長に報告しなければならない。
- 2 安全管理室会議で医療事故と判定された場合の報告は、診療録や看護記録に基づき作成するものとする。
- 3 医療事故等発生時の報告・対応に関し必要な事項は別に定める。

第6 患者等に対する当該方針の閲覧に関する基本方針

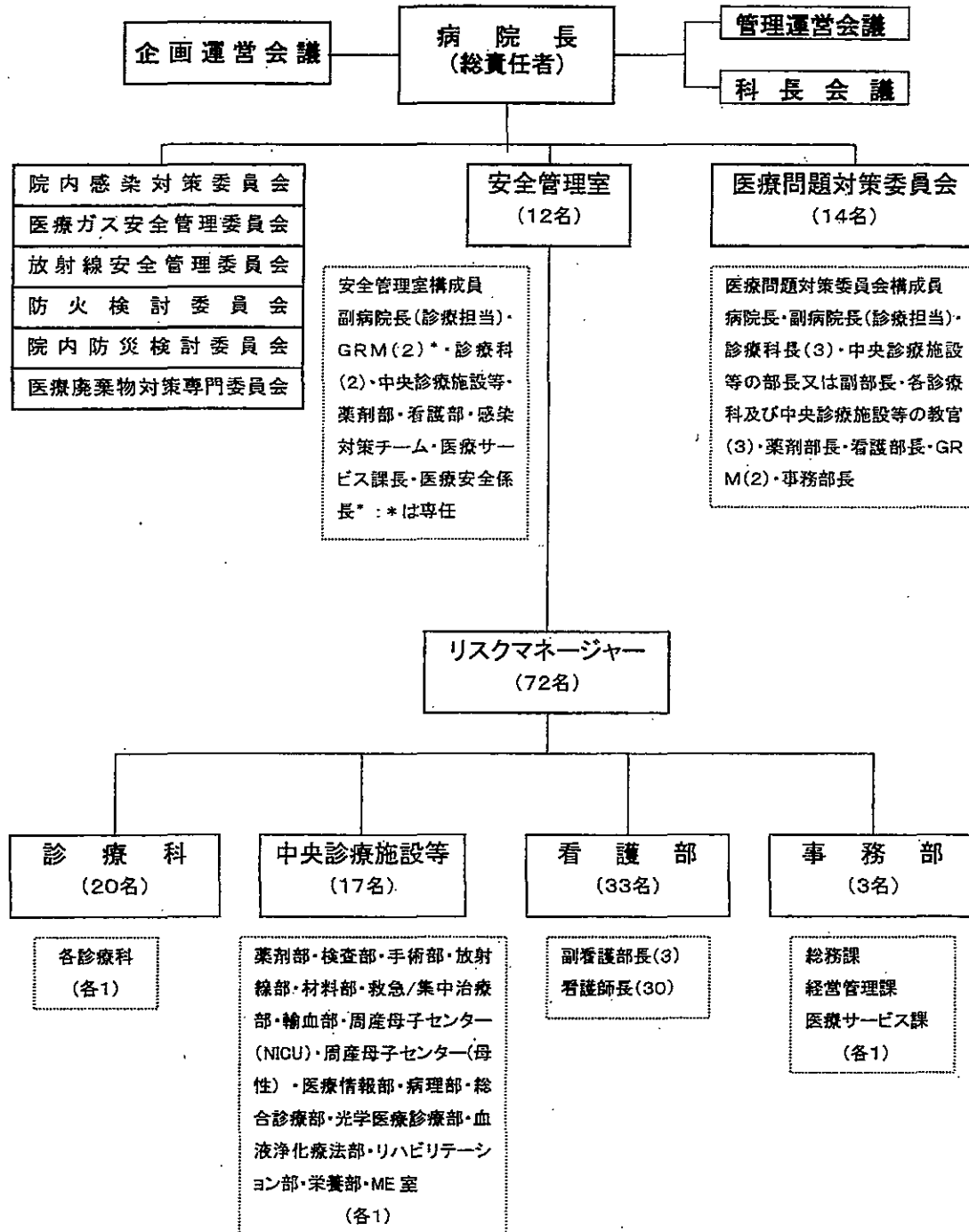
患者等が指針の閲覧を希望する場合は、閲覧に供する。

第7 その他医療安全の推進のために必要な基本方針

- 1 安全管理室は各診療科等に共通するリスクマネジメントマニュアル（以下「マニュアル」という。）を、また、各診療科等はそれぞれの部門に特化したマニュアルを作成し、関係職員に周知して医療事故等の防止を図るものとする。作成したマニュアルは常に見直しを行い随時改善するものとする。
- 2 医療の安全に関する広報紙の発行等により医療従事者に速やかに医療の安全に関する情報を提供する。
- 3 医療従事者の医療安全に関する意識向上を図るため、医療事故防止のためのポスターや標語を募集し、これらを院内に掲示することにより医療安全に関する患者等の理解の促進を図る。

5) 安全管理に係る組織図

(リスクマネージャーの配置状況等)



第1条 三重大学医学部附属病院（以下「病院」という。）は病院における医療事故の予防及び発生時の対応並びに医事紛争の処理に関し、常時、適切、かつ十分な行為を遂行していなければならない。

第2条 病院に医療問題対策委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 病院長
- 二 副病院長（診療担当）
- 三 診療科長のうちから 3名
- 四 中央診療施設等の部長又は副部長のうちから 1名
- 五 各診療科及び中央診療施設等の大学教員から推薦された者 3名
- 六 薬剤部長
- 七 看護部長
- 八 ゼネラルリスクマネージャー
- 九 事務部長
- 十 その他病院長が必要と認めた者

2 前項第3号、第4号及び第5号の委員は、病院長が任命する。

3 第1項第3号、第4号及び第5号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 医事法制に関する事項
- 二 医療事故の予防に関する事項
- 三 医療事故発生時の対策に関する事項
- 四 医事紛争の処理に関する事項
- 五 医療訴訟に関する事項
- 六 その他必要と認めた事項

第5条 委員会に委員長を置き、病院長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員が、その職務を代行する。

第6条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させ、その意見を聴くことができる。

第7条 委員会は、必要に応じて特別委員会を設置することができる。特別委員会の構成等については、その都度委員会において定める。

第8条 委員会の庶務は、病院事務部医療サービス課において行う。

附 則

この内規は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成18年4月1日から施行する。

三重大学医学部附属病院安全管理部規程

(趣旨)

第1条 この規程は、三重大学医学部附属病院規程第15条第6項の規定に基づき、三重大学医学部附属病院安全管理部（以下「安全管理部」という。）の組織及び業務について必要な事項を定める。

(目的)

第2条 安全管理部は、高度医療を提供する大学附属病院に求められている医療事故の防止及び医療の安全性の確保のため、病院長のもとに強い実行力を発揮し、安全かつ適切な医療体制を確立することを目的とする。

(業務)

第3条 安全管理部は、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 「ヒヤリ・ハット報告書」の収集・調査・防止対策及び防止対策の周知徹底に関すること。
- 二 医療事故防止・安全管理に係わる病院内の巡視・点検・評価に関すること。
- 三 医療事故防止・安全管理に係わる業務改善の提言・指導に関すること。
- 四 安全管理に係わる教育・研修・啓発に関すること。
- 五 医療事故防止対策マニュアルに関すること。
- 六 リスクマネージャー会議に関すること。
- 七 その他医療の安全管理に関すること。

(職員)

第4条 安全管理部に、次の各号に掲げる職員を置く。

- 一 部長
- 二 副部長
- 三 ゼネラルリスクマネージャー 2名
- 四 感染制御部の副部長及び看護師長
- 五 診療科から推薦された者 1名
- 六 中央診療施設等から推薦された者（医療情報部及び感染制御部を除く。） 2名
- 七 医療情報部から推薦された者 1名
- 八 薬剤部から推薦された者 1名
- 九 看護部から推薦された者 1名
- 十 医療サービス課長
- 十一 事務系の職員 若干名

(任期)

第5条 前条第5号から第9号までの職員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、職員に欠員が生じた場合の補欠の職員の任期は、前任者の残任期間とする。

(ゼネラルリスクマネージャー)

第6条 ゼネラルリスクマネージャーは、医師及び看護師長をもって充てる。

2 ゼネラルリスクマネージャーは、安全管理部専任とする。

(リスクマネージャー会議)

第7条 安全管理部のもとにリスクマネージャー会議を置く。

2 リスクマネージャー会議は、部長が招集し、その議長となる。

3 リスクマネージャー会議は、ゼネラルリスクマネージャー及び次のリスクマネージャーをもって構成する。

- 一 各診療科から推薦された者 各1名
- 二 薬剤部、中央検査部、中央手術部、臨床麻酔部、中央放射線部、中央材料部、救急部、輸血部、周産母子センター（母性）、周産母子センター（NICU）、集中治療部、医療情報部、病理部、総合診療部、光学医療診療部、血液浄化療法部、リハビリテーション部、栄養管理部及びME室から推薦された者 各1名
- 三 副看護部長
- 四 看護師長

- 五 総務課，経営管理課及び医療サービス課より 各1名
- 4 リスクマネージャーは，次の各号に掲げる業務を行う。
- 一 「ヒヤリ・ハット報告」の積極的な収集並びに医療問題対策委員会及び安全管理部において決定した事故防止策・対応策等の必要な情報を医療現場に周知徹底する。
 - 二 各医療現場において，医療事故の原因及び防止方法並びに医療体制の改善方法について，独自に検討及び提言する。
 - 三 各医療現場において，独自に事故防止のための研修会及び勉強会を開き，医療事故防止のための啓蒙活動を行う。
 - 四 その他医療事故の防止に関すること。
- 5 第3項に規定するリスクマネージャーは，病院長が任命する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか，安全管理部に関し必要な事項は，別に定める。

附 則

- 1 この規程は，平成19年1月1日から施行する。
- 2 三重大学医学部附属病院安全管理室内規（平成16年4月1日制定）は，廃止する。
- 3 この規程の施行の際現に廃止前の三重大学医学部附属病院安全管理室内規（平成16年4月1日制定）第4条第3号から第8号までの職員である者は，この規程の第4条第4号から第9号までの職員とみなし，その任期は，第5条の規定にかかわらず，従前の残任期間とする。

附 則

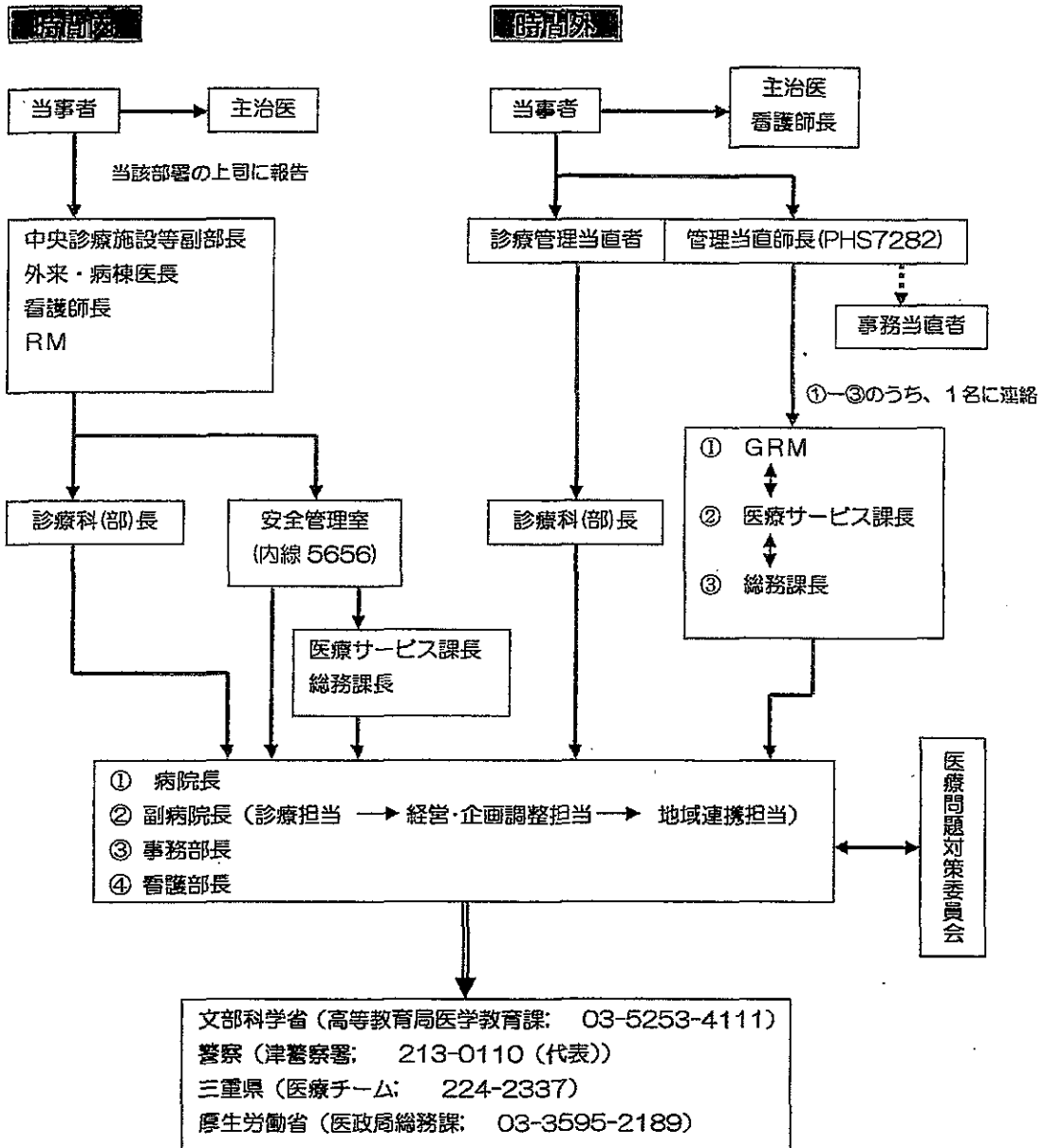
この規程は，平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は，平成19年5月2日から施行し，平成19年4月1日から適用する。

重大インシデント発生時の院内連絡体制

重大インシデントが発生した場合は患者様への対応を最優先し、下記の連絡体制により、口頭で直ちに報告すること。ヒヤリ・ハットレポートは現場が落ち着いてからの提出でよい。



⇒ 外部への連絡・報告については次項参照のこと。

.....⇒ 事務当直への連絡内容は管理当直師長日誌の記載事項とする。

三重大学医学部附属病院医療の質・倫理検討委員会規程

(設置)

第1条 三重大学医学部附属病院に、三重大学医学部附属病院医療の質・倫理検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- 一 死亡例及び重症合併症例の検討等診療の質に関する事。
- 二 先端医療、終末期医療及び治療拒否における倫理的問題に関する事。
- 三 移植医療における倫理的問題に関する事。
- 四 その他診療における倫理的問題に関する事。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 病院長
 - 二 副病院長
 - 三 病理部長
 - 四 薬剤部長
 - 五 看護部長
 - 六 副看護部長 1名
 - 七 診療科（精神科神経科を除く。）の常勤医師 2名
 - 八 精神科神経科及び臨床麻酔部の常勤医師 各1名
 - 九 安全管理部のゼネラルリスクマネージャー
 - 十 医療福祉支援センターの医療ソーシャルワーカー
 - 十一 三重大学大学院医学系研究科・医学部研究倫理委員会附属病院部会部会長
 - 十二 事務部長
 - 十三 医療サービス課長
 - 十四 倫理・法律分野の有識者 若干名
 - 十五 その他委員会が必要と認めた者
- 2 前項第14号の委員は、学外者又は三重大学大学院医学系研究科、医学部及び医学部附属病院以外の部局に属する者とする。
- 3 第1項第7号、第8号、第14号及び第15号の委員は、病院長が任命又は委嘱する。

(任期)

第4条 前条第1項第7号、第8号、第14号及び第15号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員により補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び開催)

第5条 委員会に委員長を置き、病院長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。
- 4 委員会は、原則として毎月1回開催する。ただし、委員長が必要と認めたときは、臨時に委員会を招集することができる。

(申請手続)

第6条 第2条各2号から第4号に掲げる事項の審査を希望する者（以下「申請者」という。）は、倫理審査申請書（別紙様式第1）に必要事項を記入し、関係書類を添えて、所属の診療科長又は中央診療施設等の部長（以下「所属長」という。）を経て病院長に提出しなければならない。

(会議)

第7条 委員会は、委員の過半数の出席により成立する。ただし、特に重要な事項については、3分の2以上の出席を必要とする。

- 2 委員会の議事は、出席委員全員の合意によるものとする。
- 3 第1項及び前項の規定にかかわらず、委員が審査対象となる事項の申請者又は所属長であるときは、当該事項に係る審査に参加することができない。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を出席をさせ、意見又は説明を聴くことができる。

(審査結果の通知)

第9条 病院長は審査結果を審査結果通知書(別紙様式第2)により申請者に通知するものとする。

(実施状況の報告)

第10条 申請者は、前条の通知に基づき実施した内容について、実施状況報告書(別紙様式3)により所属長を経て病院長に報告しなければならない。

(庶務)

第11条 委員会の庶務は、医療サービス課において処理する。

(雑則)

第12条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

1 この規程は、平成18年10月4日から施行する。

2 この規程の施行後最初に任命又は委嘱される第3条第1項第7号、第13号及び第14号の委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成19年1月1日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成19年5月2日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

2 この規程施行の際現に改正前の第3条第1項第7号の委員である者は、この規程の第3条第1項第7号及び第8号の委員とみなし、その任期は、第4条の規定にかかわらず、従前の残任期間とする。